

目次

Scott Burns 会長からの報告

1. 役員会の動き
2. 会員情報
3. 2016年の HCM 賞、MAM 賞、RWP 賞
4. IAEG と IAPG 間の協力協定
5. 新しい IAEG 参加国
6. 新しい技術委員会の設置
7. 各国からの活動報告
8. 第 11 回アジア地域応用地質会議(11<sup>th</sup> ARC)
9. オンライン調査の報告

Scott Burns 会長からの報告

しばらく IAEG 参加国の数は減少していたが、今年からマレーシア、モザンビーク、エジプト、ネパール、ナイジェリア、タンザニア、アルジェリア、チュニジア、パラグアイ、メキシコが加わる見通しとなった。

8月にケープタウンで役員会と総会が開催されるが、その前に5月の末にロンドンで役員会を開き多くの課題について二日間打合せを行った。議論の末、会費の改定と会誌の電子化に向けたスケジュールを概ね固めた。会計担当からの収支報告を確認し、webの現状については管理者の Giorgio Lolino から説明があった。また、各技術委員会の機能改善策について提案を行った。Hans Cloos 賞と Marcel Arnould 賞の投票をし、Hans Cloos 賞はトルコの Resat Ulusay 氏に、Marcel Arnould 賞はイタリアの Giorgio Lolino 氏に決定した。

前の編集長で、応用地質学会に長年にわたって貢献された Brian Hawkins 氏がこの冬に亡くなった。お悔やみを申し上げます。

6月にブルガリアで開催された会議の中心となった Kill Angelov 氏にお祝いを述べます。この会議は、自然災害後における応用地質学の挑戦がテーマで、ソフィアでの三日間の会議に70人以上が参加した。この会議の間には、IAEG ヨーロッパVPの Rafiq Azzam と Giorgio Lolino をはじめヨーロッパ10カ国の会長が参加した Meeting も開催した。

役員会では、国際組織としての戦略として新しい(管理部門の)委員会の設置を検討してきた。Strategic Planning(戦略計画)委員会、Enterprise(事業企画)委員会、規約改定委員会など、

次回の総会で内容が紹介されるものの、総会の 4 か月前までに提案できなかったので規約により設置を決定することはできない。

2018 年の第 13 回 IAEG サンフランシスコ会議の HP は今年の 10 月にはスタートできる。本会議は、2018 年 9 月 18 日から 22 日の 5 日間の予定で、週中には日帰りの巡検を計画している。会議には 40 以上の数のセッションと、会議前後には巡検が用意される予定である。

まもなく、IAEG コネクターと呼ぶ世界中の応用地質学ニュースなどを知らせる電子 News letter が二週ごとに会員に発信される。広告料があるためコストはかからず、現在、送付する会員のデータベースを作っており、ケープタウンではそれらの準備を具体化する。

次の総会は第 35 回 IGC 大会があるケープタウン、その次は 2017 年の秋にネパールの予定。サンフランシスコの会議に向けて各国から名誉会員を募集するので、この 2 年の間に推薦してほしい。2022 年の第 14 回 IAEG 大会の開催地は 2017 年の総会で誘致希望を受け付けて、2018 年のサンフランシスコの総会で決定することになる。スポンサーを希望するなら来年には準備を始めてほしい。また、Hans Cloos 賞への応募なども期待している。

## 1. 役員会の活動

### (1) 2016 年 3 月 16 日の役員会

- ・ Giorgio Lolino が、アルジェリア、キプロス、エジプト、チュニジアの 4 カ国から IAEG への参加希望がある旨を報告した。既に 6 月に開催されるブルガリアでのヨーロッパ地域会議に参加予定であり、ケープタウンの総会にも参加を要請した。

- ・ アフリカ VP の Louis van Rooy が各国グループに IAEG への参加を積極的に勧誘しており、今度の総会で報告される。

- ・ 長らく活動がなく IAEG から脱落したネパールとパラグアイの活動が今年復活してきている。役員会はこれを歓迎し、過去に無活動であった期間の会費は免除することにした。次回の総会に代表が出ることを期待している。

- ・ Wu 事務局長から、Hans Cloos 賞などの募集締切が 5 月 1 日であり、Hans Cloos 賞の推薦を中国とトルコから受けたことを報告した。

- ・ ケープタウンでの役員会と総会よりも前に、重要事項を議論するためにヨーロッパで追加の meeting を持つことにした。

- ・ 収支計画は会計担当の Jean Alain が欠席のため先延ばし、IGC の関係も Louis van Rooy が不在のため先延ばしした。

- ・ ケープタウンでの役員会開催を 8 月 26 日と 27 日、総会を 28 日に決定した。

### (2) ロンドンで開催された役員会

5月28日と29日にロンドンの Heathrow で開催し、12名全員が参加した。

・35回 IGC への参加と IAEG の行事

VP の Louis van Rooy が 35 回 IGC の準備状況を報告した。IAEG 関係については IGC の技術委員会に続いて決まるとのことである。IAEG 関係の日程は以下の通り。

8月26-27日 IAEG 役員会

8月28日 IAEG 総会

8月29日 Richard Wolters 賞の選定、5名の審査員を任命

8月31日 IAEG 会員向けに2時間を用意、Hans Cloos 賞、Richard Wolters 賞、Marcel Arnould 賞の発表があり、Hans Cloos 受賞者から40分間の Lecture を予定。

・Hans Cloos 賞には3名の推薦候補、Marcel Arnould 賞には別の3名の推薦候補があり、役員の投票によって決定した受賞者にはすぐに通知をする。Wu 事務局長によると、Richard Wolters 賞には現時点で3名の応募しかないため、総会の60日前までさらに応募を募る。

・編集長で会費改定検討委員長の Martin Culshaw から状況報告があり、会費の金額と先進国と途上国の評価について集中議論してきたので、総会で詳細報告し賛否を問う。

・IAEG の戦略について、その役割やビジョンについて半日議論をし、総会でも継続議論する。IAEG には中-長期計画が必要で、規則の改定、Strategic Planning(戦略計画)委員会、Enterprise(事業企画)委員会、若手委員会などの立上げが必要と考えられる。

Scotto 会長から、二週ごとの News letter として web 管理者と会長が管理する IAEG Connector の提起があった。

・技術委員会を管理する TOC には役員全員が担当になり、各々2,3の委員会に係る。

・Martin Culshaw 編集長がブリテンの状況と投稿原稿の数について紹介し、総会で報告する。

・Giorgio Lolino が web サイトの改良について紹介、6月末を目途に整える。

・Scott Burns 会長がマイアミでの姉妹学会と行った meeting を報告、組織運営等において見習うべきことが多い。

・中国の Shaoxing 大学における応用地質と岩盤力学フォーラムへの招きについて、投票で了承した。

・2017年の役員会と総会の場所はネパールとし日程はネパール側で検討する。

・Scott Burns 会長から2018年のIAEG大会の会場、宿泊、巡検などの準備状況について報告された。700から1,000人の参加者があることを想定している。

・FedIGS の活動報告

FedIGS は2006年に結成された国際連合組織で、各学会の会長、前会長、事務局長が集まって年1回の会合を行う。今年はマイアミで開催された。参加学会は、

・ ISSMGE(地盤工学)

90 カ国から 19,900 人の会員数がある。12 名の役員、35 の技術委員会からなる。

・ ISRM(岩盤力学)

59 カ国から 8000 人の会員数がある。12 名の役員、18 の技術委員会からなる。

・ International Geosynthetic Society

1983 年に設立された新しい学会で、41 カ国から 4,220 名の会員数がある。三つの技術委員会からなる。

JTC 1(自然斜面と地すべり) 6月にイタリアで 400 人以上が参加する会議があった。

JTC 2(地盤情報) 過去 4 年間活動がなく中止する。

JTC 3(教育育成) ロシアの Dr. Shidlovskaya を新しい委員長に任命した。

次回の meeting は 2017 年 9 月 21-22 日にソウルで開催される ISSMGE の会議中に行う。他の組織の機能から浮かぶアイデアを IAEG の役員会や総会に提案したい。

1) Enterprise 委員会 2)メディア 3)若手会員の委員会 4)Strategic 委員会 5)管理組織

・ 事務局長から報告

1 月 18-19 日に中国の Kunming で開催された第 69 回 IUGS 役員会に出席し IAEG の組織や活動を紹介するなどのプレゼンを行った。35 回 IGC の事務局長から、62 カ国から 569 名が登録し、558 のアブストラクトを受け付けたとの情報が入っている。

IAEG 副会長からのニュース

・ ヨーロッパ

ヨーロッパ各国の IAEG グループにおいて活動を活性化すること、現在参加していない国に応用地質学会を新しく設立するために、VP の RafiqAzzam と Giorgio Lolino が会員や窓口の情報を集める努力を行った。特に、Panel ERC PE10 list が応用地質学や応用地形学などを含まないことに注目した。そこで、6 月 19 日にソフィアで各参加国の会長が集まり各国間の協力について議論した。Scott Burns 会長は Panel ERC PE10 list の改定要望を支持し、ERC の理事会に文書を送ったが、そこには全ヨーロッパ参加国の会長名を付した。また、会議への若手の参加を促すために、彼らの招待講演を常に含むということをはじめることにした。

・ 北アメリカ

VP の Jeffrey Keaton は、第 3 回北アメリカ地すべりシンポジウムを IAEG の後援とすることを望んだ。会議は 2017 年の 6 月 4-8 日にバージニア州で開催される。

SME Sustainability シンポジウム&ワークショップは、タイトルが Engineering Solutions for Sustainability で 2017 年の 2 月 18-19 日にデンバーで開催される。これについても後援することになった。

## 2. 会員情報

情報提出依頼に対して 24 カ国からの回答による集計であるが、会員数 3,198 名、うち会誌あり 1,265 名、会誌なし 1,914 名である。

## 3. 2016 年の HCM 賞、MAM 賞、RWP 賞

Hans Cloos 賞はトルコの Resat Ulusay 氏に、Marcel Arnould 賞はイタリアの Giorgio Lolino 氏に決定し、事務局長から IAEG 各国に広報を行った。

## 4. IAEG と IAPG 間の協力協定

IAEG は、IAPG (The International Association for Promoting Geoethics) と協力協定を結んだ。

## 5. 新しい IAEG 参加国

アフリカ VP の Louis van Rooy の呼びかけで、アルジェリア、エジプト、モザンビーク、ナイジェリア、スーダン、チュニジアの 6 カ国が今年 IAEG に加わった。ヨーロッパではキプロスが復活し、ノルウェーも復活の見通しである。

アジアでは、マレーシアとネパールが復活しており、2017 年には両国ともに重要な会議を開催する。ネパールは第 11 回アジア地域会議の開催を、マレーシアは Engineering Geology for Urban Sustainability の国際会議を予定している。

南アメリカでは、パラグアイが活動を復活した。北アメリカでは、VP の Jeffrey Keaton がメキシコ代表にコンタクトして IAEG への復活を促している。

## 6. 新しい技術委員会 (Commission) の設置

### IAEG C37 Landslide Nomenclature

本委員会は、2015 年の総会の決議を受けて地すべりの記載、解析や機構、対策に関する国際学術用語集の改定を目的に設置された。委員長は中国の Hengxing Lan で、第 1 回目の meeting が 2016 年 6 月 13 日にナポリで行われた ILS 会議中に開催され 7 カ国から 19 名が参加した(日本からは千木良顧問が参加)。Meeting の結果、五つの項目(地すべりの移動速度、地下水の状態、地盤のタイプ、地すべりリスク、地すべりのタイプ)に分けて各々責任者を置いて検討し、2016 年中に英語で原案を作成する。次に、参加各国のリーダーのもと掲載国の言語に翻訳する手順を進めることになった。

## 7. 各国からの活動報告

### ・アルバニア

昨年、アメリカで亡くなった Dr. Betim Muco 氏を記念して 2016 年 1 月に記念式典を催し

た。氏は1990-1991年に東京大学の博士課程において日本の地震学とは馴染みが深かった。

・ブラジル

ブラジル応用地質学会(ABGE)はラテンアメリカ Risk 研究会と合同で、2016年5月10-13日にサンパウロで第3回リスク研究会議を開催した。また、ABGEは第16回環境と応用地質ブラジル会議の準備を開始した。

・カナダ

第69回カナダ地質工学会議、2016年10月2-5日 バンクーバー を開催予定。

・中国

国際海洋応用地質シンポジウム、2016年10月21-24日 Qingdao を開催予定。

・インド

第6回アジア地域 Geosynthetic 会議、2016年11月8-11日、ニューデリー を開催予定。この会議は、1997年インド、2000年マレーシア、2004年ソウル、2008年上海、2012年バンコックで開催されてきた。

・日本

熊本地震の速報レポートを報告。

・オランダ

2016年 Ingeokring 秋季地震工学シンポジウム、2016年11月18日に開催予定。2008年四川地震の地震工学に学ぶと題して元会長の Niek Rengers 氏が講演を行う。

・セルビア

第15回応用地質と地盤工学に関する国際シンポジウム、2016年9月22-23日に開催予定。

・エジプト

土木構造物の維持と地盤工学の新技术に関する GeoMeast2017 国際会議  
2017年7月15-19日、エジプト を開催予定。

・スペイン

IAEGの前会長の Carlos Delgado がスペイングループの会長に選出された。

## 8. 第11回アジア地域応用地質会議(11<sup>th</sup> ARC)

昨年のニューデリーの総会において、ネパールで開催することが決まった第11回アジア地域会議とIAEG役員会と総会の開催に向けて、IAEGは2015年11月にネパール地質学会に正式に依頼を行った。Tribhuvan大学のRanjan Kumar Dahalが準備を進めている。会議の日程については、ネパール地質学会とネパール政府が検討中である。

Tribhuvan大学において南アジアで初めて応用地質学の大学院修士課程(MSc)を開設した。ネパールは、IAEGのメンバーからこれに関する意見や改善とともに支援を求めている。

## 9. オンライン調査の報告

会誌の配布状況と、2016年における最も関心がある応用地質学分野とIAEGへの提言、を

テーマに 2015 年の末からオンライン調査を行った。会誌については 22 カ国から 44 の返信があり、関心分野と提言については 19 カ国から 43 の返信があった。

- ・ **Token** の使い方がわからないということへの対応として登録の仕方を解説する。

- ・ 関心分野と提言については、内容が大きく五つに分けられる。最大関心分野、技術継承(人材育成)、IAEG の管理運営、会員サービス、オンライン調査への意見である。最大関心分野のトップは昨年につき、地球温暖化と、自然災害とその対策、であった。技術継承(人材育成)、IAEG の管理運営、会員サービスに関する提言については、具体的で有益であり将来の会員サービスや学会運営の改善を検討するうえで大いに役立つものである。

次回の調査は 2016 年の末の予定であり、より多くの積極的な意見を期待している。

以上